

NEWS LETTER



NO.10 2002.3.30

にほんごひろば岡本

発行：にほんごひろば岡本（甲山国際文科学館内）
〒658-0003 神戸市東灘区本山北町 3-2-10
Tel:078-453-5941

桜の早すぎる開花に少々戸惑いながらも、なにやら華やいだ気持ちになる昨今です。季節の移り変わりは、私たちの日常にひとつの区切りをつけてくれます。四季のある国で生活している喜びを感じるとともに、春夏秋冬の自然がもたらしてくれる大切なものを見失わないように、私たちの感性を磨き続けていきたいと思います。

「にほんごひろば岡本」は4月から兵庫日本語ボランティアネットワークからの依頼を受けて「御影教室」をスタートさせることになりました（詳細は3ページに掲載）。従来からの願いであった「東灘地域の日系南米人の学習支援」を実現するための第一歩です。毎週日曜日の午後6時から9時まで、学習者の仕事の都合にあわせて二つのグループに分けて、クラス授業の形で進め



る予定です。今までの学習支援と違う点が多く、なにかと問題が出てくるかもしれませんが、活動の基本姿勢は変わりません。学びたい人、支援したい人が共に知恵を出し合ってより良い形での活動をめざしたいと思っていますので、より一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

● CONTENTS ●

【特集】 ひろば3度目の春を迎えて 下田美津子 … 2

【連載】 学習者・支援者の紹介 学習者の自己紹介 … 4

【学習者のひろば】 王さん 日本語試験一級体験記 … 7

モニカさん 宝塚市外国人日本語スピーチ大会に参加して … 7

【トピック】 にほんごひろば岡本 御影教室 … 3

第7回ワークショップに参加して 森喜代子 … 8

《特別寄稿》

「にほんごひろば岡本」3度目の春を迎えて

神戸松蔭女子学院大学助教授 下田 美津子

にほんごひろば岡本にかかわるようになって、3度目の春がめぐってきました。私は日本語教育ワークショップをとおして、支援者の方とかかわってきました。これまでに7回ワークショップを行なっていますが、皆さんお忙しい中を毎回20人前後の方が参加してくださっています。

ワークショップのあとで記入してもらっているアンケートから、それぞれの方が日本語教育の支援活動の中でどんな喜びがありどんな悩みをかかえておられるのかを垣間見ることができます。そのおかげですべての方にお会いしているわけではないのですが、この原稿を書くにあたってはっきりとした個性的な輪郭を持った支援者のお顔とお名前を何人も思い浮かべることができず（もちろん私がとらえているのはそのほんの一面にすぎませんが）。そしてこの2年あまりのあいだに、皆さんがそれぞれ悩みながらも地域社会で**共生するための「ニホンゴ」**という観点を見失わずに、自信をつけ大きくなっておられる様子をうかがえたのが私にとっての最大の収穫でした。

そこでこちらでもワークショップをよりパワーアップするために皆さんの力をお借りして、5回目からはワークショップの後半を支援者交流会にあて、各自の活動を紹介してもらっています。お互いに苦労を話したり、教え方のアイデアを出したり、同じ悩みをすでに解決した人からアドバイスをもらったりと支援者同士が知り合い話し合うことで、ともしれば孤立感をいただくこともあるボランティアの日々の活動がより楽しく、充実したものになることを願っています。



これまでのワークショップで取り上げたテーマは以下の通りです。①助詞の話 ②可能表現 ③あげる・もらう・くれる・やる ④中級の日本語教育 ⑤「なめらかな日本語」とはどんな日本語か ⑥条件表現「たら・ば・と・なら」 ⑦受身表現。

現在、寄せられている希望するテーマとしては●敬語の教え方●方言について(関西弁を習いたいという学習者への対応なども含めて)●媒介語がないときの教え方●具体的な教え方●発音の指導など。

文型・文法では◎使役表現◎連体修飾◎接続詞◎自動詞と他動詞などがあがっています。

わたしのほうから共に考えていきたいことも取り混ぜながら、順次取り上げていきたいと思いますが、この他に何か希望のテーマあるいはご提案がありましたら、西村さんまでお伝えください。

元気いっぱい支援者を励ましてくれる学習者、ニューズレターの編集に、催し物の裏方にそれぞれの個性を発揮する支援者、カナメとなる魅力的なコーディネーター。日本語教育面で支援者を支援する役割のはずのわたしがいつのまにか皆さんの熱さと暖かさに励まされている不思議。「ニホンゴ」を通して結びついた私たちの関係がこれからどんな風に変わっていくのか、「ひろば」を舞台とした定点観測の楽しさを皆さんと共有したいと思っています。

※下田先生、支援者だった福原香織さんの描かれたイラストがたいそうお気に入りの様子です。ずっと変わらず、ハツラツ先生でいてくださいね。

《御影教室について》

平成14年1月13日（日）から、兵庫日本語ボランティアネットワークが3カ月間限定の特設教室として「東灘地域に住む日系南米人のための日本語教室」を始めました。学習者は区内の食品会社で働いている日系ブラジル人で、午後5:30～7:00のAクラス12人と午後7:10～8:40のBクラス3人の合計15人です。クラス形式の学習で、先生はネットワークに加盟している「たんぼぼの会」メンバーの桑原実さんです。「にほんごひろば岡本」の関野聡美さんも授業を担当したことがあります。教室では先生のほかに「にほんごひろば岡本」などから毎回数名がアシスタントとして参加しました。学習者が個々にドリルやロールプレイをする際、効果的に行われるように手助けするためです。

学習は「みんなの日本語初級Ⅰ」を基本に、桑原さんの準備した豊富で細やかな教材を使って行われました。時には、日本語の上手な学習者がポルトガル語で先生の話进行を解説するなど和やかな雰囲気で行われました。

学習者は、深夜や早朝からの仕事で疲れや睡魔と闘いながらの参加だと思われそうですが、熱心でかつ楽しそうな学習の様子に心打たれました。こうして順調に2カ月経過しましたが、3月に入って急に仕事が忙しくなりほとんどの学習者が教室に来られなくなってしまったことがありました。そのため、一時は教室の存続も危惧されましたが、それも何とか乗り越え、学習者の強い希望もあって今後も継続していくことになりました。



今後（4月から）の運営は兵庫日本語ボランティアネットワークから依頼を受けた形で、「にほんごひろば岡本」が行うこととなりました。この教室を「にほんごひろば岡本 御影教室」として運営してまいります。内容的には、当面学習時間が30分後ろにずれること以外は今までとほとんど同じ形で継続されます。運営実施にあたっては、今まで同様いろんな方のご協力をお願いしなければならないのは勿論ですが、とりわけ「にほんごひろば岡本」の支援者の方々のバックアップをお願いしたいと思います。

（御影教室責任者・四本裕）

支援者・学習者の紹介

◆クルーズ・パーシヴァルさん

男性（フィリピン出身）

漢字大好き・ラーメン大好き

私たちの授業は「こんにちはアル（パーシヴァルさんのニックネーム）さん！」「先生こんにちは！」から始まります。

アルさんは去年の4月5日、日本に来られ、日本滞在期間はちょうど1年になります。最初に彼に会ったのは去年の夏でしたが、その時アルさんの日本語力は既に相当なものでした。奥様が日本人であるということを割り引いても、彼の日本語学習にかかる情熱は当初から伝わってきました。



アルさんが私の指定した予習の範囲よりも先に自分でどんどん勉強していくので、教える側が彼のペースについていくのが大変です。特に、アルさんは漢字が好きで、驚くほどのスピードで次々と覚えていきます。先日「狂牛病」と書いて何と読むのか聞いてみたら「キョウギウビョウね！」とあっさり答えられてしまいました。

アルさんはフィリピンのマニラ生まれで、お父さんは外交官、お母さんは数学の先生、お姉さんはイギリスで看護婦をなさっているそうです。そして彼自身も日本で奥様と同じ会社で働いていて、まさにインターナショナルな御一家です。

アルさんの趣味はテニスとスキーで、好きな食べ物はラーメンとギョウザだそうです。逆に、日本食で唯一苦手なのは「ショウガ」だそうです。

アルさんの性格はとても明るく誠実で、しかもいつも前向きで、日本の若者もアルさんを見習って欲しいなぁと思うぐらいです。（濱田芳孝）

◆濱田芳孝さん

コーヒープレイクも大切にしています

私は一昨年の6月まで、外務省に勤めておりましたが、思うところあって生まれ故郷の神戸に戻ってきました。過去13年間、外交官として国際的な仕事に取り組んできましたが、今後は前職で得た体験・経験・知識を生かして神戸のために何かしたいと思っています。その一環として何かボランティアをしてみたいと思い「にほんごひろば岡本」の扉を叩いて、西村さんに暖かく迎えて頂いたのです。

アメリカやフランスに留学していた時に、日本語クラスのアシスタントや交換授業をしていましたので、教えることについては抵抗はありませんでしたが、マン・ツー・マンの授業では生徒の意欲が問題になってきますので、多少の不安はありました。しかし、蓋を開けてみると生徒がアルさんという日本語を真剣に習得しようとしている素敵な青年でしたので、とても楽しく授業をさせて頂いています。

私は、授業はもちろんのこと、コーヒープレイクの時間（10～15分）も大切にしています。この間は、教科書から離れて日本の生活・文化、ときには時事問題なども話題に上ります。日本の真の姿を客観的に見てもらいたいので、善悪を含め歯に衣着せず話しています。私は自分が外国語を学ぶ時もそうですが、言葉はあくまでもコミュニケーションの道具であって、本当に大切なのはその言葉を使って「何を話すのか」だと思っています。

私の知る限りでは、その国の言葉をボランティアで教えている国はありません。もちろん語学学校はありますが・・・

今後も「にほんごひろば岡本」のようなボランティア団体が日本の真の国際化に着実に寄与していくことを念じつつ、筆を置かせて頂きます。

◆陳 金龍さん 男性 (台湾出身)

検定試験めざして

陳 金龍さんは台湾からの留学生です。YMCA で日本語の勉強をされている陳さんは「好青年」という言葉が良く似合うとても感じの良い男性です。

昨年の3月に来日された陳さんを私が担当させて頂くことになったのは、今年の1月でした。

YMCA で日本語を勉強されている陳さんは、文法はかなり理解されているものの、シャイな性格もあり、声に出そうとするとなかなか言葉が出てこないという感じでした。しかし、回を重ねるごとに文章の読み方や会話が少しずつですが上達してきており、私も一緒に勉強していてとても嬉しく、そして楽しく感じています。

今はYMCA が春休みということですが、自分で新聞記事を切り抜いたり、お茶に関する文章（実家が製茶業のため）を手に入れたりして、漢字の読み方の勉強をされています。

12月には日本語検定1級を受けてみたいと、日本語に対する「欲」も出てきているようで、「私もがんばろう!!」と、良い刺激を受けています。

そんな良い刺激を与えてくれる陳さんは、勉強が終わった後、私に簡単な中国語を教えてください。もともと、私が「～は中国語でなんて言うの?」と、半分むりやり聞いていたのですが(笑)、今では私が忘れていないと、「先生、今日は勉強しないんですか?」と、毎回欠かさず教えてくれ、それも私の楽しみの一つになっています。

まだまだ未熟な私ですが、これからも良い刺激を与え合い、がんばりましょう!! (角田尚美)

◆角田尚美さん

ひろばは私の刺激剤

私は昨年11月よりにほんごひろば岡本でお世話になっている新米ボランティアです。

自分が趣味で英会話を習っていることもあり、以前より逆の立場に立って、日本語を外国の方に教え

てみたいと思っていました。しかし、以前はデパートで働いており、シフト制の仕事だったため、決まった休日がなく登録する機会がありませんでした。



昨年の10月より旅行会社に転職をし、たまたま配属が事務だったため毎週土・日という決まった休みを得られ、念願の登録を果たすことができました。

最初に担当させていただいたのは、インターシップで来日されていたフランス人の男性でした。全く日本語を教えた経験がなかったため、最初の1時間半はとても緊張しましたが、テキストを勉強するよりも会話をしたいという方だったので、かなりリラックスすることができました。11・12月と一緒に勉強をしたのですが、本人が千葉の大学に行きたいということもあり、わずか2カ月のお付き合いでした。そして、今年から前述の陳さんの担当をさせていただきます。

いろいろな国の方と知り合うのは文化の違いを知ることでもでき、とても楽しいです。自分が普段何気なく使っている日本語でも、説明しようとするときすごく難しかったり、新しい発見があったりで、私自身も、もっと日本語を勉強しよう、もっと日本語を知ろうという気になります。そういう点で、にほんごひろばは私の生活の中の良い刺激剤になっています。

まだまだ、わからないこともたくさんあり、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、皆様よろしくお願い致します。



◆ヴァネッサさん 女性 (イギリス出身) 日本語で日記を書いています

イギリス出身のヴァネッサさんは、日本に来られて 2 年数カ月ですが、来日当初は日本語が全く話せなかったという事が今では信じられないほど、上手に日本語を話しておられます。



毎回の授業では、テキスト(みんなの日本語)、自動詞・他動詞、漢字、会話と、一応この4つ

を偏りなく学習することが目標なのですが、どうも会話の方が弾んでしまい、ついつい後回しが増えてしまいます。

今回はこの会話の中からヴァネッサさんらしいと思われる最近の出来事の一つ紹介したいと思います。

ヴァネッサさんを御存知の方はお分かりいただけると思いますが、彼女はとても西洋人らしい容姿をしておられます。ある時、ヴァネッサさんが「すみません。宿題ができませんでした。電車の中で勉強することは私にとってとてもむずかしいです」と言われたので、その理由を尋ねたところ、電車の中でヴァネッサさんが日本語のテキストを勉強しようとすると、必ず隣の人が“英語”で話し掛けてくるそうです。そして、またその問いかけに律儀にも英語でヴァネッサさんが答えるので、話し掛けた人は益々、ヴァネッサさんは日本語が話せないと思い込み、色々ともた英語で質問をしてくるのだそうです。また、話し掛けてくる日本人は、年齢 20 代半ば～30 代あたりの少し英語ができるだろうと思われる人が多いのだそうです。(この話を聞いて、私自身年齢的にあてはまるので、ドキッとしたのですが・・・)

日本の英語事情を知っておられるヴァネッサさんは、英語が話したくてもなかなか話す機会が無い日本人

の心情を察知してか、英語で話し掛けられたら英語で答える様にしておられるそうです。「今度、英語で話し掛けられたら、日本語で答えてみたらどう？」という私の意地悪な質問に対してヴァネッサさんは「・・・それは、できません・・・」とのこと。

日本語に対して、とても積極的なヴァネッサさんは、自主的に日本語で日記を書いてこられますし、また授業の間は日本語だけしか使わないと決められています。このようながんばり屋さんの彼女を見ているとこちらも本当に勇気付けられます。これからも一緒にがんばりましょうね!! (関野聡美)

◆林 軍さん (女性) 中国出身

MD片手に頑張ってます

私が林軍さんと初めて会ったのは、昨年の 8 月 8 日、その時の彼女は、ほとんど日本語が話せず、そのせいか、とてもシャイな女性という印象を受けました。彼女は神戸大学に留学中のご主人の胡さんのもとに 2000 年の秋来日、H.I.A (兵庫県国際交流協会)で半年間、グループレッスンを受けていました。

彼女は、もともと 4 歳の娘さんに日本語を教える

て欲しいと言ってきたので、最初の 2、3 回は娘さんの付き添いという立場



で私と接していました。その後、自分も日本語の勉強が是非したいと言われ、林さんが 1 時間、娘さんが 30 分という新たな形で学習が始まりました。彼女の学習意欲は旺盛で、私が今まで支援してきた何人かの勉強熱心な中国人の中でも群を抜いていました。文法の初歩から、使役、受け身、尊敬と自分のわからないことは、理解できるまで質問されるので私も毎回、文型辞典、広辞苑、日中辞典を片手に、日本語と英語で必死で説明しました。

こんな林さんですから、とても 1 時間の学習時間では足りなくなり、そのうち 1 時間半全部が、彼女の学習時間となりました。回数も週 1 回から 2 回となり、毎回、MD ウォークマンを持参してわからない発音は全部録音して帰ります。ですから、彼女の日本語の上達ぶりは目を見張るものがあります。今では英語もほとんど使わなくなったほどです。支援者としては、本当に嬉しい限りです。

4 月からは、神戸商船大学に社会人入学をし、また新しい分野の学習にチャレンジします。1 月に彼女のお母さんと帰国して、今は天津の幼稚園に通園している娘さんの事を思うと胸の内は複雑なようですが、もう少し日本で胡さんとがんばるそうです。

こんな優秀な学習者に恵まれ、毎回刺激を受けている私ですが、全く中国語が上達しない自分に情けなくなるばかりです。
(橋本桂子)

学習者の自己紹介

◆鄭 信嬉さん 女性 (韓国出身)

本場のキムチの作り方教えます

私は韓国の釜山からまいりました鄭 信嬉(チョン・シンヒ)です。主人の勉強のために来ました。子供 2 人とともに 4 人家族でくらしています。子供たちはいつも元気すぎて、毎日大声を出さなければならぬほどです。でも自分の子だからかわいいですね。私は好きな料理と掃除などをしながら、家で時間をすごしています。

日本に来たばかりのころは、友達もいなかったし、知り合いもいなくて大変さびしかったです。今はだいぶなれて、あまりさびしくなくなりました。私がいままでくらしてきた釜山とにている神戸がぐんぐんすきになってきました。

広い海をみながらさびしい心をいやし、さらに六甲山を見ると春夏秋冬をかんじ、元気いっぱいになります。

6 カ月ほどまえ、うれしいことができました。

いままでずっと家にばかりいた私に、ここ「にほんごひろば岡本」があらわれました。ここで萩谷先生を紹介してもらってから本当の日本語の勉強ができるようになりました。

ふつうのあいさつ“こんにちわ”で勉強がはじまりますが、授業の時間にはいろいろなたのしい話が出て、たびたびおおきな声でわらうときもあるし、しんぱ



いなことがあったらいっしょにしんぱいしてくれるし、先生はおねえちゃんのようにしてくれて、萩谷先生に心から感謝しています。

いつもえがおでみんなにしんせつにしてくれる西村さんにも感謝しています。

韓国の本当のキムチが好きな人がいたら、いっしょに作りながら友達になりたいです。

“どうぞ私のうちへ・・・”

学習者のひろば

★私の日本語一級試験体験記

私は王禹(オウ ウ)と申します。

日本に来て今ちょうど二年になりました。日本での生活はもう慣れました。日本の文化は中国の文化と似ていると言われていますが、実際違うところが結構存在しています。だから最初はかなり苦しかったです。今回の日本語一級試験は幸いに合格しましたが、自分も



ちょっと意外に感じております。経験とは言えないですが、少し感想を言います。

外国語の勉強は人それぞれ、難しい所は違うと思

っています。私は聴解が苦手です。にほんごひろばに来たばかりの頃山本先生の言った事はぜんぜんわからないので、なかなか勉強が進みませんでした。私も先生も困っていました。毎日家に帰ってから、必ずテレビを付けて、どんな番組にかかわらず、取りあえず日本語を流しっぱなしにしました。それがとても役に立ちました。

一級試験は語彙がすごく多く、特に副詞と形容詞は難しいです。しかも、外来語が多く、カタカナなので覚えにくいです。仕方が無い、一つずつメモをして覚えなければなりません。テレビもいい先生です。手話ニュースという番組を皆さんは見たことがありますか。アナウンスしながら、字幕も出てきます。ヒヤリングの練習と同時に言葉の勉強になります。すごくいいと思います。もし時間があれば、是非見て下さい。

皆さんもご存知だと思いますが、一級受験はまる一日を使うから、前の日ちゃんと休む事が大切です。気楽な気持ちを持って自分の学んだことを全部出したらきっといい結果がでます。

※王さん、一級合格おめでとうございます。手話ニュースとてもいい教材ですね。みなさんも是非見て下さい

★スピーチコンテストに参加して

私は たくさんの人の前で話すことが にがてですから スピーチコンテストに出るのは 私にとっ

てチャレンジになります。

スピーチコンテストの日は はじまる 10 分前 私はとてもリラックスしていました。でも スピーチコンテストがはじまったら しんぞうがときどきしてきました。 だから スピーチをするときに こえが 出てこなかった。とても たいへんでした。いろいろな ともだちが スピ

ーチを聞くのに来てくれましたから スピーチがおわったら とても かなしいきもちでした。まちがいがいっぱいあって ぜんぜん うまいかなかった。

スピーチコンテストに 14 人がさんかしました。とても おもしろい おはなしでした。 みんなよく がんばりました。

ロシア人は上手で しょうを二つとりました。かれにおめでとうございます。(モニカ)

※モニカさんのスピーチは「メキシコのマリア様」という題でした。メキシコの人々みんながそのマリア様をとても大切に思い暮らしているのが、伝わってとても心温まるお話でした。ナイスチャレンジでした。本当に
お疲れさまでした。



《ワークショップに参加して》

松蔭女子学院大学日本語教育コース 1 回生 森 喜代子

「にほんごひろば岡本」には今年の 1 月末に来たばかりで、2 月 16 日はちょっと緊張しながら日本語教育ワークショップに参加しました。学習支援の経験のない私にはみなさんのお話がとても参考になりました。交流会での支援者、学習者、学習内容の紹介では、学習者が録音してきた「ちびまる子ちゃん」を説明したり、論文を書く手伝いをしたり、いろいろな相談にのったりという話が聞けてよかったです。教科書の日本語を教えることだけが支援活動なんじゃないんですね。学習者も支援者もいろんな人がいて、支援の仕方もいろいろあるっていうことがよくわかりました。今まで「上手に教えられるだろうか」とばかり思っていたんですが、このワークショップに参加して、上手かどうかはそんなに重要なことじゃないかもって思えてきて、少し気が楽になりました。

学習者のニーズに合わせて楽しく学習支援ができたらいいなあとと思います。不安もあるけど、早く教えてみたくてしかたなくなりました。

※森さんは 3 月から台湾の陳金龍さんの支援を始めました。

